

# 小型船艇による落水者の揚収方法について ～救助用簡易吊り具(スリング)『タスケル輪!!』の紹介～



# 小型船艇で落水者を船内に引揚げるには困難を伴う。 ～そもそもプレジャーボートの使用目的は、レジャーである。～

- プレジャーボートの様な小型船で落水者を船上に揚げるには、船のスペック(大きさ、舷の高さ、装備)、乗船者の状況(人数)、落水者の状況(体力の有無)、気象・海象状況等により異なり、ケースバイケースでより良い方法を模索する必要があります。
- 仮に落水者の体力が無くなってきている、船の舷側が高い、乗船者(救助要員)が少ない等、条件が悪くなればなるほど、救助は困難な状況になります。
- この様な場面を想定し、落水者を揚げるための救助用簡易吊り具(スリング)『タスケル輪!!』を事前に準備しておくことで、効果的に落水者を揚収することが出来ますので、一例をご紹介します。



※舷が高い船の場合、機材と多くの人手が必要となる。



※ミニボートの様に小さいボートの場合、落水者の揚収方法を誤ると転覆するおそれがある。

# 救助用簡易吊り具(スリング)『タスケル輪!!』を使用した救助例



① 落水者に救命浮環を投げ、つかまらせる。

③ 救命浮環につかまった落水者を船に引き寄せる。

② 救助作業中、落水者の身体保護のため、船の舷側に毛布を広げておく。





④ 救助用簡易吊り具  
『タスケル輪!!』を落水者  
に着け、確保する。

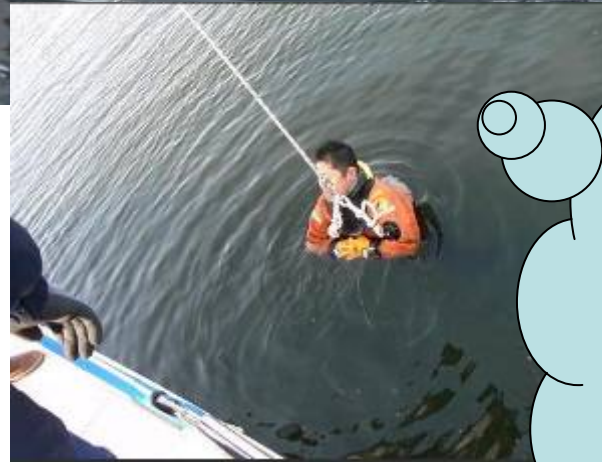


⑤ 救助用簡易吊り具  
『タスケル輪!!』の取っ手  
をつかんで、落水者を船  
内に引揚げる。



# ヨットでの救助例

① 『タスケル輪』をハリヤード  
に取付ける。  
この際、引寄せ索も取付けて  
おけば、取込みが容易になる。



② 落水者を救命  
浮環等で船の側  
まで引寄せた後、  
『タスケル輪』を装  
着させる。



③ ハリヤードをウインチ等で巻上げ、落水者を引揚げた後、船内に收容する

※写真の艇では、メインハリヤードを使用しているが、艇によって艀装等が異なることから、

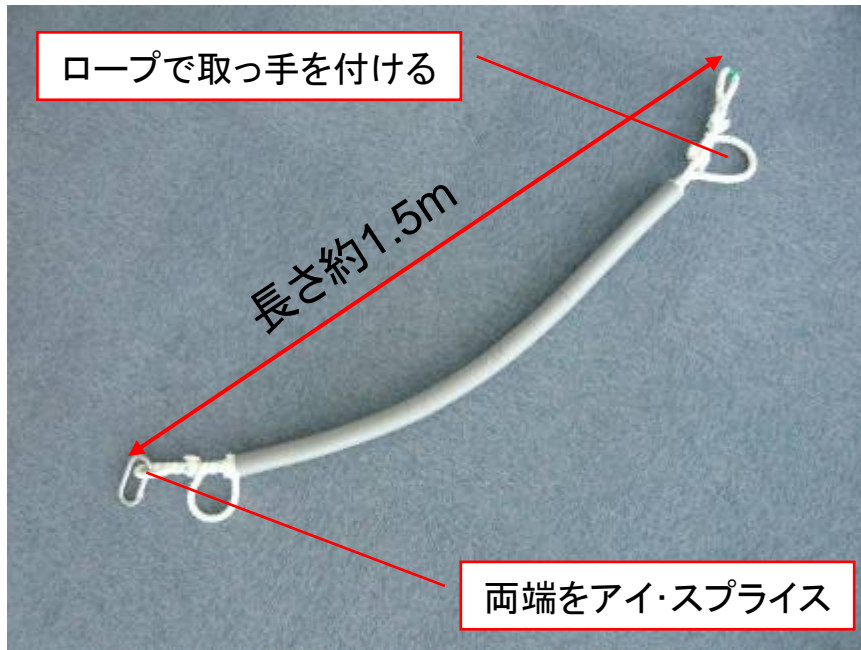
- ・引揚げ用のブロックを用意する。
- ・ブームを利用する。

等各艇の特性に合わせシミュレーションし、最適な方法を事前に検証しておくことが重要である。



※ 使用しない時は、スタンションに這わせて掛けておけば、スッキリと収まり、いざと言うときに直ぐに使用できます。

# 『タスケル輪!!』救助用簡易吊り具(スリング)



- この『タスケル輪!!』救助用簡易吊り具(スリング)は、太さ20mm程のロープの両端にアイ・スプライスを施した長さ1.5m程のロープで、浮力とクッション性を持たせるため、クッション材(ポリエチレン製の水道管保温材等)を巻きつけ、両端にロープで取っ手(輪)を取付けたものです。
- 使用する際は、右写真の様に両端のアイをカラビナで結合し、引揚げロープを結索しておきます。
- 今回紹介する『タスケル輪!!』の材料は、ホームセンター等で安価に揃い、自作も出来ますので、船に用意しておくことをお勧めいたします。

※ 使用時の形状が輪になること、取っ手(輪)が付いていることから、『タスケル輪!!』と名が付けました。  
なお、本スリングは、海上保安庁OB大崎氏が考案した救助用吊り具を改良したものです。

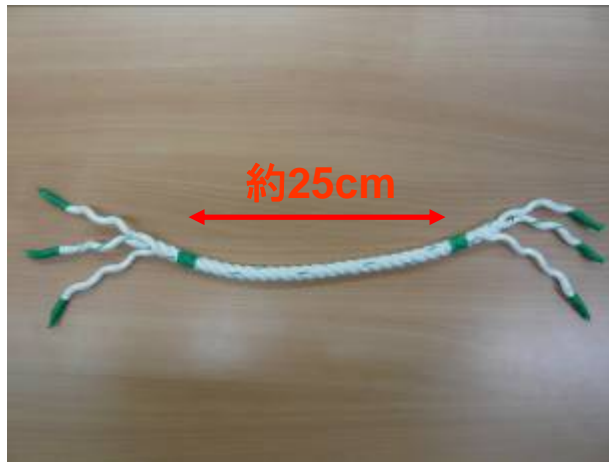
# 『タスケル輪!!』救助用簡易吊り具(スリング)の作り方

(材料:太さ20mm程度のロープ3m、クッション材(ポリエチレン製の水道管保温材等)1m、カラビナ)

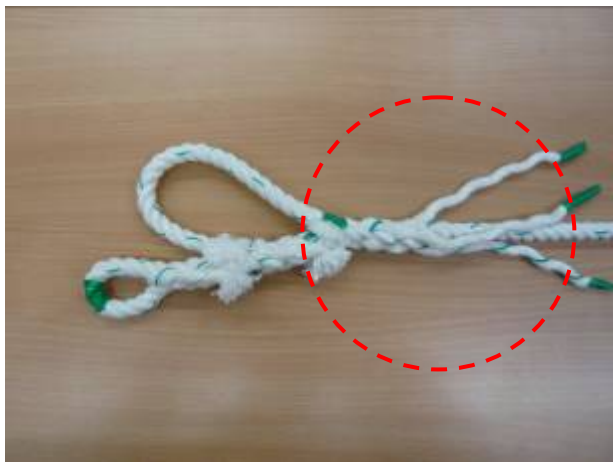
①長さ1.5mになるようにロープの両端をアイ・スプライス加工する。



②取っ手のロープを2本用意する。



③アイ・スプライスの直ぐ脇に取っ手となるロープをスプライス加工する。



④輪になるように取っ手のロープのエンドをスプライスして取付ける。



⑤同様に両端に取っ手を取付ける。



⑥ロープにクッション材を巻きつける。カラビナを取付け完成。